



チーム I
中川 忠則
議員

▼東北大地震の予算に与える影響について

Q ①普通、特別交付税への影響。②市税の増税への影響。③本年度の各種事業への支障。④人件費への影響。⑤議員報酬の日当制の検討。

A ①額的にはわからないが、前年度より減るものと思っている。②市単独での増税は考えていない。③事業費の調整ができないかも含めて見直したい。④地方公務員の給与制度の見直しは今後論議されていくと考えている。⑤議会活動の状況等を踏まえていただき、議会で判断していただくものと考ええる。

▼若い人を残す政策について

Q 農業、漁業、職人などの後継者が技術を習得するのに税金を投入してはどうか。

A 技術習得も必要だが、やはり各種就労の場をふやすことが必要だと思う。就農支援については、専業就農者に報奨制度を、漁業者にも同じような制度を設けている。

Q 十年間に二十代は何人島原に在住すると予想するか。

A 十八才で卒業して、その十年後に本市に在住するのは、六割程度考えている。

▼鯉の泳ぐまちの入り口の空き地利用について

Q 空き地にコイを泳がせる日本庭園をつくってはどうか。

A 島原中央公園、霊丘公民館前の広場、四明荘や湧水園あたりと一体となるようにコイを泳がせることを考えてみたい。

▼柿の木町に隣接する長池三合線の雨水対策について

Q 先般の大雨で被害も出ているので早急の対策をお願いしたい。

A 流域の水量計算の再検討や道路側溝、排水路などを再検討して対応したい。

▼教育問題について

Q 中学・高校の一番大事な時期に、我慢できない子どもたちが増加しているのはなぜか。

A 主な要因は、子供たちを取り巻く環境の変化、核家族や少子化に伴う家族構成の変化、遊びの中で培われていく人間関係の欠如など、我慢すること、忍耐力を養う場が少なくなったことが原因だと考える。



新風会
本田 順也
議員

▼選挙について

Q 市議選の投票率について、最高値と最低値はどうか。

A 投票率が一番高かったのは第十七投票区の新天公民館で、投票率八十四・七八%、投票者数は四百九十人である。一番低い投票所は第十九投票区の新湊ミニスポーツの家で、六十七・五一%、投票者数は千三百五人である。

Q 年齢別ではどのような結果だったのか。

A 八十歳以上が五十七%、七十歳代が八十三%、六十歳代が八十四%、五十歳代が八十%、四十歳代が七十二%、三十歳代が六十五%、二十歳代が四十九%である。

Q 四年前と比較してどうだったのか。

A 今回の投票率は七十二・八四%で、四年前の平成十九年度の投票率は七十九・一三%で六・二九%の低下となった。

Q 期日前投票について、有明支所と本庁ではどのような結果だったのか。

A 五月二十三日から五月二十九日までの

期日前投票の期間中、有明支所では千百三人、本庁では三千八百四十三人、合計で四千九百四十六人の期日前投票があつている。なお、四年前には有明支所で七百三十三人、本庁で二千八百二十一人、合計で三千五百五十四人だったので四割近く増加している。

Q 投票率を上げる工夫はしているのか。

A 選挙のお知らせを「広報しまばら」の五月号に折り込み、告示後に選挙公報を作成し、市内全世帯に配布した。また、告示日の前日、明るい選挙推進協議会の委員二十名と市内三カ所所で街頭啓発活動を実施した。告示日以後は、防災無線により計十回の啓発の放送を行い、新聞広告の掲載、ポランティアの協力のもと視覚障害者への点字や朗読の広報を作成して送付したほか、庁舎玄関などに懸垂幕、看板を設置し、市内百九十三カ所にポスター掲示場の設置などを行った。加えて、選挙直前までに、老人クラブ、婦人学級、青年団を対象とした選挙啓発講座を計三回実施した。

【その他の質問項目】

- ◇ 大三東漁港整備について
- ◇ 学校の校舎について
- ◇ 東日本大震災による影響について
- ◇ 地元の企業への活性化について